



今年も「じんぐうじまつり」を開催します。日程は十月十一日（日曜日）。残念ながら、コロナウィルス感染予防の為、稚児行列・舞台・出店は行いませんが、観音祭法要・四国御遍路お砂踏み・お写経・火渡り行は例年通り実施する予定です。法要後には非公開の観音像、曼荼羅図を特別拝観出来ます。世知辛いご時世にひと時の安堵を授かりにご参拝下さい。

祈りの力 良啓

先日、「風の谷のナウシカ」と言う映画を観ました。高度に発達した文明が地球を汚染しました。千年後、地上の多くはまだ汚染され、生き残った人類は、わずかな土地でおびえながら生活を送っていました。どうしたら、この苦境から脱することが出来るのか。ある者は、古代兵器を使用し、汚染土壌を焼き払えと言いました。しかし、主人公の少女は、汚染土壌の地下に浄化された土や水がある事を知り、排除するのではなく、共存する道があると信じています。今まさに、新型コロナウイルスと言う未知の脅威にさらされ、効果的な解決策が見えない日々を過ごしています。このウィルスの未解明の部分に何か大きな意思が存在するのかも知れません。ただ、その全容が明らかになるまで、しばらく時間が必要です。その間、不安だと思えます。仕事や収入が減り、生活が苦しい方がいる事でしょう。その様な方は、お祈りをしては如何でしょうか。お寺に参拝し、観音様に不安な気持ちを吐露してください。弱っている心を休めに来てください。祈りを気休めだという人がいます。違います。祈りは力を発揮する為のスイッチです。不安は隠したり、目を背けるものではありません。正面から向き合い、乗り越える壁です。独力で越えられない人の為に、観音様がいます。心が折れてしまった人の為に仏教の知恵は役立ちます。明るい未来を想像し難い今こそ、祈りましょう。さすれば道は開けん！

アマビエってなに？



鳥のくちばし、魚のうろこ、ひきずる長髪、三本足…。



寺務員 三原



コロナ禍の中、あつという間に世に広まった疫病退散のシンボル「アマビエ」。SNSやニュースでその姿をご覧になった方も多いのではないのでしょうか？かわいような不気味なような、一度見たら忘れられない不思議な姿。気になってネットでその正体を調べてみたところ、興味深いお話が出てきました。あちこちから抜粋し、まとめたものをここに紹介します。

アマビエが人の前に姿を現したのは江戸時代の肥後の国（熊本県）。夜中、光を放ちながら海中から現れ、疫病の流行を予言。さらには自らの姿を描き写し世に広めるよう言い残し、海に帰って行ったそうです。

その後、江戸の町を中心に海外からやってきた未知の疫病「コレラ」が大流行し、たくさんの方が亡くなりました。人々は根拠のない噂に惑わされながらも、身を清め、外出を控えるなどして耐え忍んだそうです。

そしてこの時に、アマビエともアマビコ（アマビエのルーツといわれる猿のような妖怪）ともみられる三本足の妖怪の写し絵が市中で売り歩かれたとの記録が残っているそうです…。

当時の人々の不安な気持ちは、今の私たちには想像に難くないものですね。昔の人が、すぐる様な気持ちで買い求め、飾ったであろうアマビエの写し絵が、コロナ禍の日本で再流行していることに、時を超えた共感、連帯感を感じます。先の見えない不安の中で過ごす毎日ですが、コレラ禍を乗り越えた先人の暮らしに思いを馳せ、現代の恵まれた環境に感謝する良い機会かもしれません。

神宮寺でもアマビエの御守の授与が始まりました♥

また、お堂ではアマビエの姿の写し絵として、消しゴムハンコを押した用紙を用意しております。こちらはご自由にお持ち帰りいただけます。

夏のお参りの際には是非、神宮寺にやってきたアマビエの姿をご覧くださいね。

